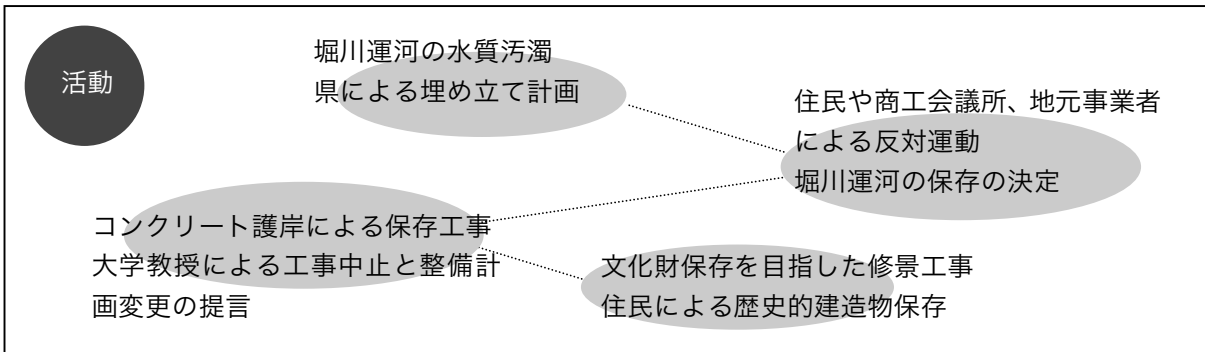
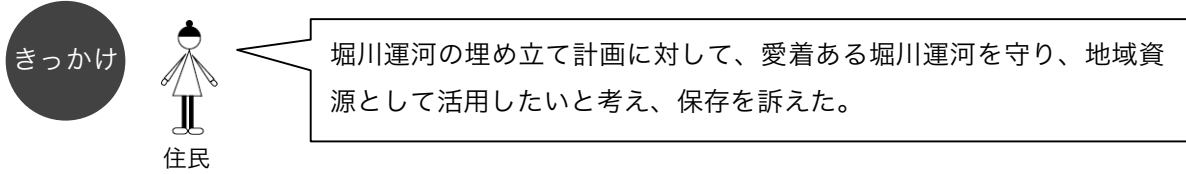
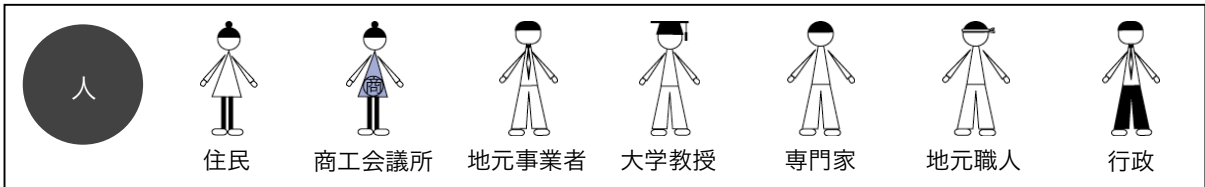




戦前は地域の産業を支え、賑わいをみせた堀川運河でしたが、戦後になると水質汚濁による悪臭が問題となり、埋め立てが決定されました。これに対して、愛着ある運河を守ろうとする住民の反対運動によって、保存が決定しました。

ところが、保存に向けて開始されたのは埋出しによるコンクリート護岸工事。歴史的価値を訴える有識者の働きかけにより、文化財保存を目指した修景工事に切り替えられました。これに触発された住民による歴史的建造物保存も行われています。



- 効果**
- 歴史的な価値のある堀川運河が保存される
  - 堀川運河周辺の修景が進み、快適な水辺空間が生まれ出される
  - 住民により、堀川運河周辺の歴史的建造物保存の取り組みがおこる

住民・商工会議所等	大学教授	専門家	行政
<ul style="list-style-type: none"> <li>○イベント開催や郷土誌編纂などによる運河の保存運動（住民、商工会議所、地元事業者）</li> <li>○運河周辺の歴史的建造物保存（住民）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コンクリート護岸の中止と文化財保存修景事業への切り替えの提言</li> <li>○行政、住民、専門家の統括による景観まちづくりの牽引</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○緻密な調査による修景計画策定（専門家）</li> <li>○地場産材を用いた復元工事（地元職人）</li> <li>○質の高い景観デザインによる空間整備（専門家）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コンクリート護岸工事中止の英断（県）</li> <li>○運河の修景と周辺のまちづくりの一体的な検討（県・市）</li> </ul>

1970~

運河臭うなあ…

それなら埋め立てよう

でも観光資源になるのでは？  
保存して！

1988

運河保存のために私たちが何かしよう！

堀川運河は、水質の悪化が問題となっていました。そのため埋立計画が検討され、一旦は埋立が承認されます。

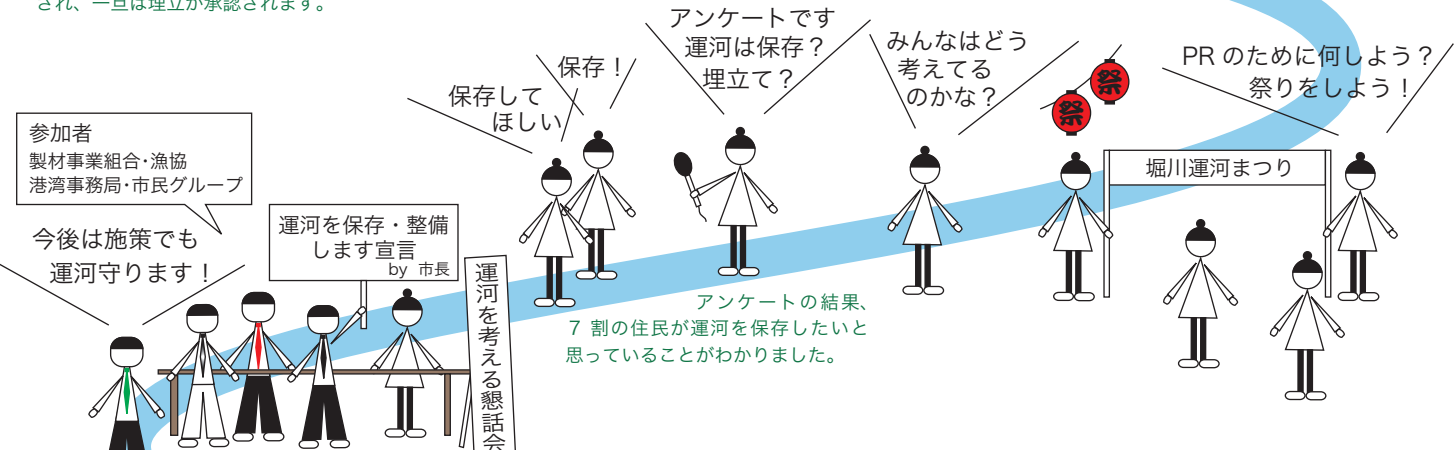
運河を観光資源として活用しようという気運が高まり、住民による「油津堀川運河を考える会」が結成されます。



参加者  
製材事業組合・漁協  
港湾事務局・市民グループ  
今後は施策でも運河守ります！

運河を保存・整備します宣言  
by 市長

運河を考える懇話会



日南市産業活性化協議会は、異業種交流を目的に設立されました。運河再生の盛り上がりを受けて、油津地区の再生に取り組みます。

日南市産業活性化協議会

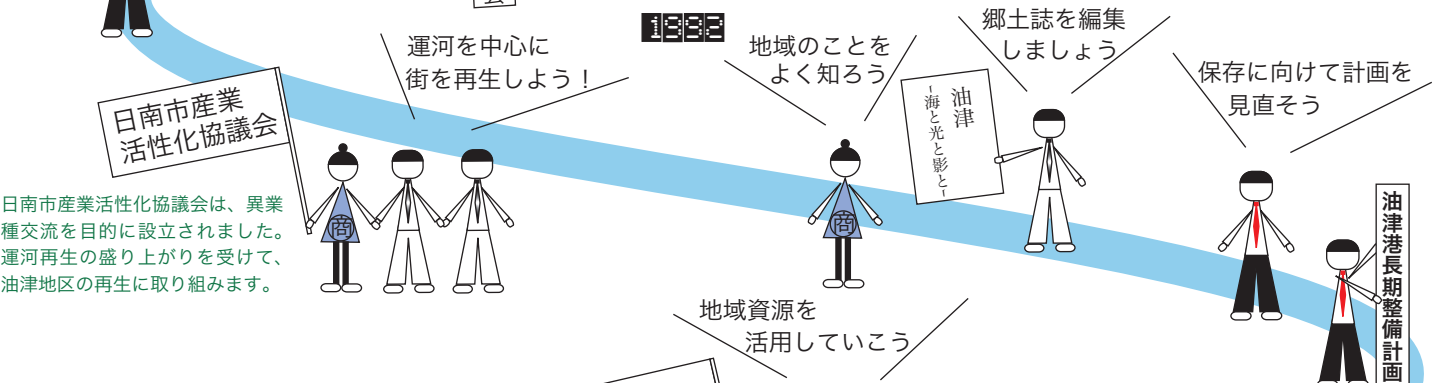
運河を中心に街を再生しよう！

1993

地域のことをよく知ろう

郷土誌を編集しましょう

保存に向けて計画を見直そう

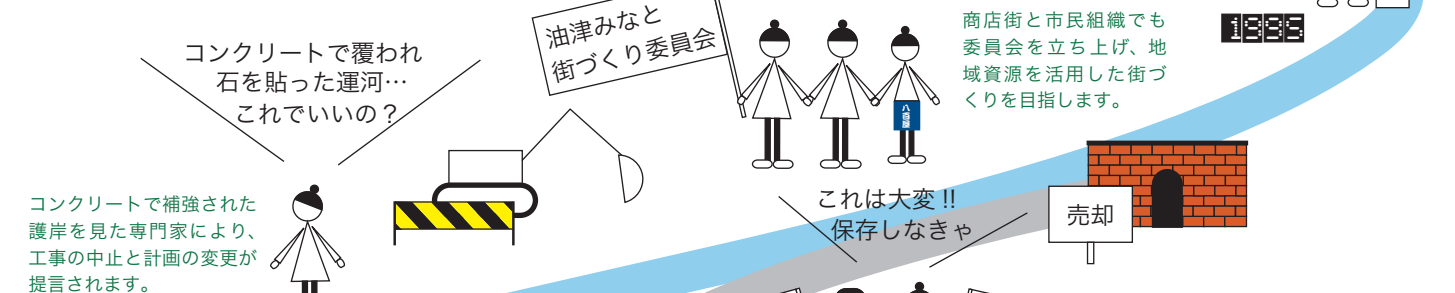


コンクリートで覆われ石を貼った運河…これでいいの？  
コンクリートで補強された護岸を見た専門家により、工事の中止と計画の変更が提言されます。

油津みなと街づくり委員会

商店街と市民組織でも委員会を立ち上げ、地域資源を活用した街づくりを目指します。

1995



2001

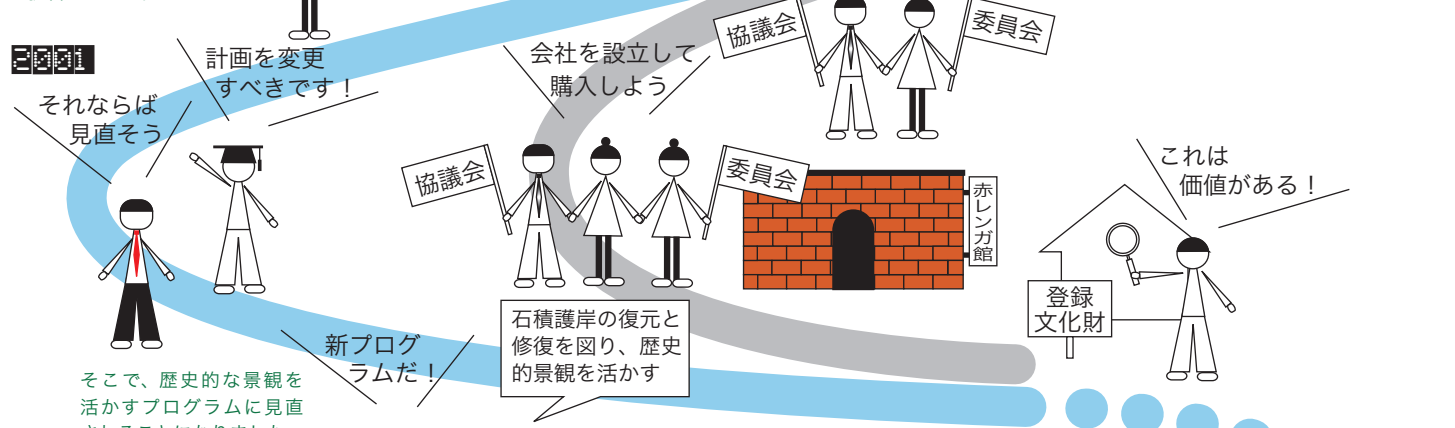
計画を変更すべきです！

それならば見直そう

会社を設立して購入しよう

協議会

委員会



そこで、歴史的な景観を活かすプログラムに見直されることになりました。

新プログラムだ！

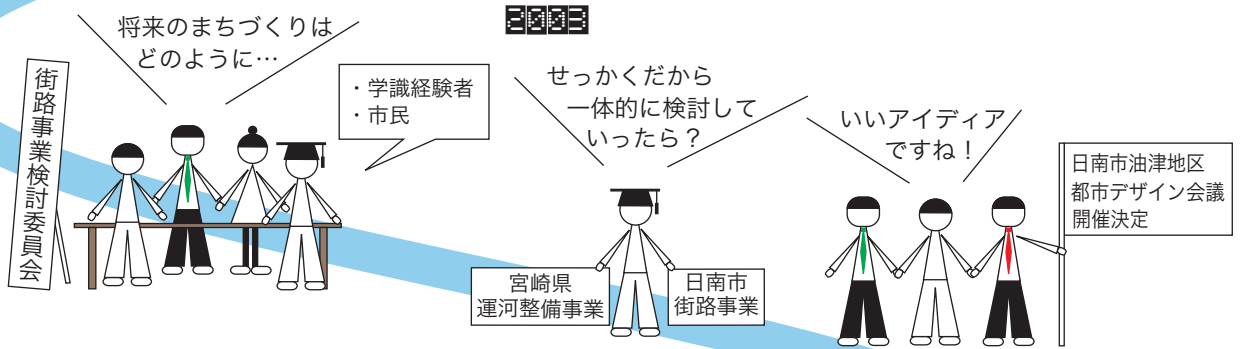
石積護岸の復元と修復を図り、歴史的景観を活かす

石積護岸の修復と修景プログラム

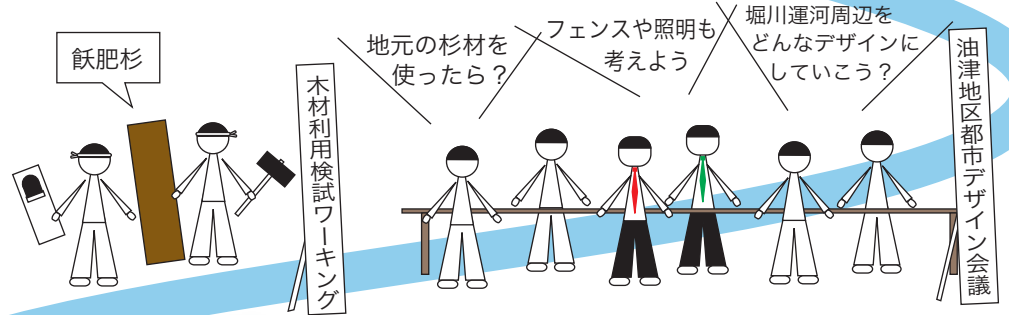




石積護岸の修復に併せて、県では堀川運河周辺の整備計画の検討が進められます。

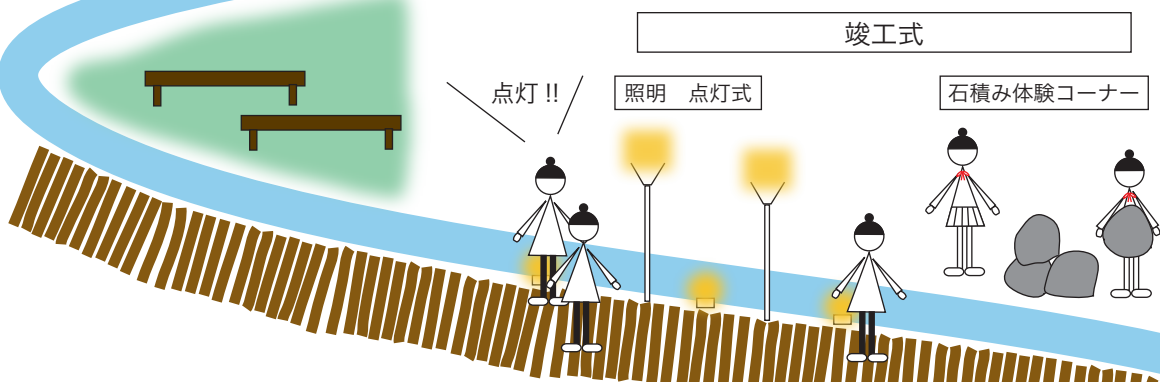


市では、街路事業調査を開始し、堀川運河周辺の将来まちづくり構想を策定していきました。

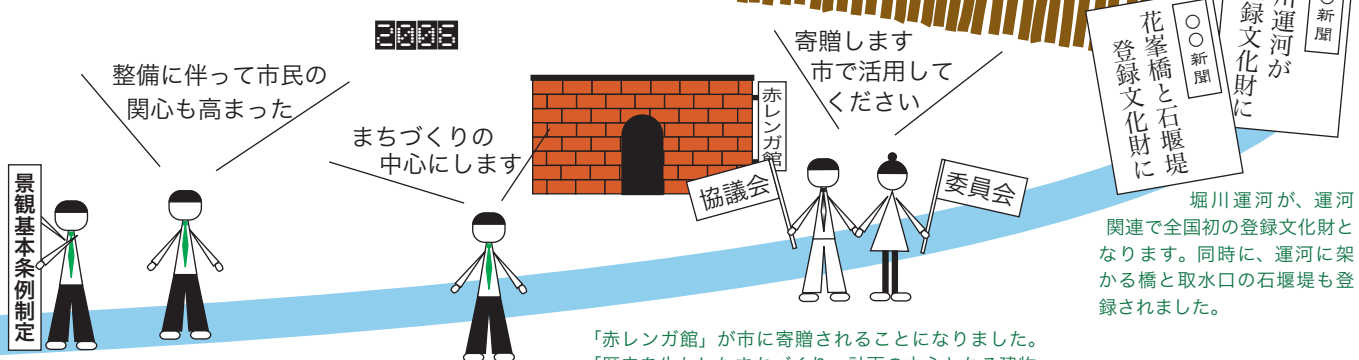


地元森林組合や大工の協力を得ながら、地場産材である杉の使用が検討されました。そして、ボードデッキや木橋などで積極的に使われます。

運河整備事業と街路事業を統合して「日南市油津地区都市デザイン会議」が設立されます。これ以降、事業主体にとらわれることなく、行政と専門家、市民が一体となった検討が進められるようになります。



竣工式では、子どもたちによる石積み護岸体験や、照明の点灯式が行われました。



市では、景観に対する市民の関心が高まったことも受けて、景観行政団体になり、次いで「日南市美しいまちづくり景観基本条例」を制定しています。

「赤レンガ館」が市に寄贈されることになりました。「歴史を生かしたまちづくり」計画の中心となる建物として、市では活用方策と保存修理計画の策定に取り組んでいます。

堀川運河が、運河関連で全国初の登録文化財となります。同時に、運河に架かる橋と取水口の石堰堤も登録されました。

## □景観まちづくりの3原則からみた成功のポイント□

## 原則1《地域性》 歴史・文化・産業・意匠・構法・素材などの地域資源の再発見

## ●郷土誌の編纂や、まちづくりの調査を踏まえた堀川運河の評価

- ・ 市民の間で堀川運河の保存運動が盛り上がる中、日南市産業活性化協議会（通称NIC21）[昭和62年（1987）から]でも、堀川運河を中心とする油津地区の再生に取り組み始めました。そして、地域の歴史や産業、生活、環境、文化などの関係性を踏まえて堀川運河を総合的に理解することが必要であるという考えから、郷土誌の編纂に取り組みました。歴史資料の収集や、地域のお年寄りへの聞き取り、アンケート調査などを行い、さらに、まちづくりの提言をまとめ、『油津—海と光と風と—』を出版[平成5年（1993）]しました。
- ・ さらに、商店街や市民グループに呼びかけを行い、「油津みなと街づくり委員会」を設立[平成7年（1995）]し、地域資源を活用したまちづくりの調査などに取り組みました。そして、その成果をまとめた報告書『蘇れ油津：港と運河のまちづくり計画策定事業』[平成7年（1995）]をまとめました。これらの郷土誌や報告書は、その後のまちづくりの、重要な手がかりとなりました。
- ・ その後、油津のまちなみや堀川運河周辺の建築物や土木工作物について、文化庁登録有形文化財に申請して[平成10年（1998）、平成16年（2004）、平成18年（2006）]、21件が登録されました。油津の歴史的資源を内外にPRする上で、大きな効果がありました。

>>地域の歴史や文化などを見直してみることで、景観まちづくりの目指すべき方向性が見えてきます。

## ●材料・工法に忠実にこだわった運河の修復・復元

- ・ 学識経験者の提言を受けて、宮崎県では、堀川運河の歴史的価値を活かした保存・再生に取り組みました。県の公文書センターに保管されていた記録から、大正から昭和にかけての工事内容を明らかにすると共に、石積護岸の実測に取り組みました。これを踏まえて、地元の石工の協力を得ながら、伝統工法にこだわった修復・復元を行いました。また、使用する石材も、元々の石積護岸とほぼ同質の石材（長崎県諫早地方の砂岩）を探し出して使用しました。これにより、往時の景観を取り戻すことに成功しました。

>>建造物等の修復や再生では、可能な限り、元々の材料や工法を忠実に再現することで、場所にあった景観が生まれます。

## ●地場産材を活用した堀川運河の水辺のデザイン

- ・ 堀川運河の石積護岸の修復・復元と併せて行われた周辺の水辺空間の整備では、地場産材である飫肥杉が使用されました。耐久性が乏しい杉材の使用に対して、メンテナンスまで考慮して使用方法を検討したことで、ボードデッキやベンチなどでの使用を実現しました。また、飫肥石は小舗石として用いられています。地元には、飫肥石を小舗石（ピンコロ）として使用する文化はありませんでしたが、その材質を考慮した上で、使用が決定されました。

>>景観まちづくりにおいて、地場産材を使用することは、地場産業の活性化に繋がります。

## 原則2 《推進体制》 早期からの適切な行政・市民・専門家のコラボレーション

### ●市民団体、商工会議所・商店街による地域資源活用の取り組み

- ・市民の間で、堀川運河の観光資源としての価値が再認識され始めた頃、市民により「堀川運河を考える会」が設立 [昭和63年 (1988)] され、アンケートや「堀川運河まつり」の開催などを通じて、堀川運河のPRに取り組みました。このPRが奏功し、堀川運河保存の気運が盛り上がる中、日南市は、製材関係者や漁業関係者、港湾事務所、市民グループなどと「観光懇話会」を開催し、保存の是非を考えました。そして、市長が保存・整備の意向を示したことから、市の政策が、運河保存へと変更されることとなりました。

>>様々な人々が、各々の立場から考えを表明し、検討することが、景観まちづくりを適切な方向へ導きます。

### ●専門家の提言を踏まえた、県による工事中止と整備方針の変更

- ・市民による保存運動と日南市の方針変更を受けて、宮崎県により、堀川運河の整備工事が開始されました [平成5年 (1993)]。しかし、この工事は、堀川運河の歴史的価値を活かしたのではなく、石積護岸の前面にコンクリート護岸を設置し、遊歩道を整備しようという内容でした。
- ・この状況を視察した篠原修東京大学教授 (当時) によって、工事中止と整備計画の変更が提言されました。これを受けて、宮崎県で事業の見直しを行った結果、石積護岸の修復による歴史的な景観の復元へと方針が変更されました。併せて、設計チームの再編が行われ、篠原修東京大学教授 (当時) の統括のもと、文化財修復の専門家、都市計画家、土木設計家、デザイナーによる、設計体制が作られました。

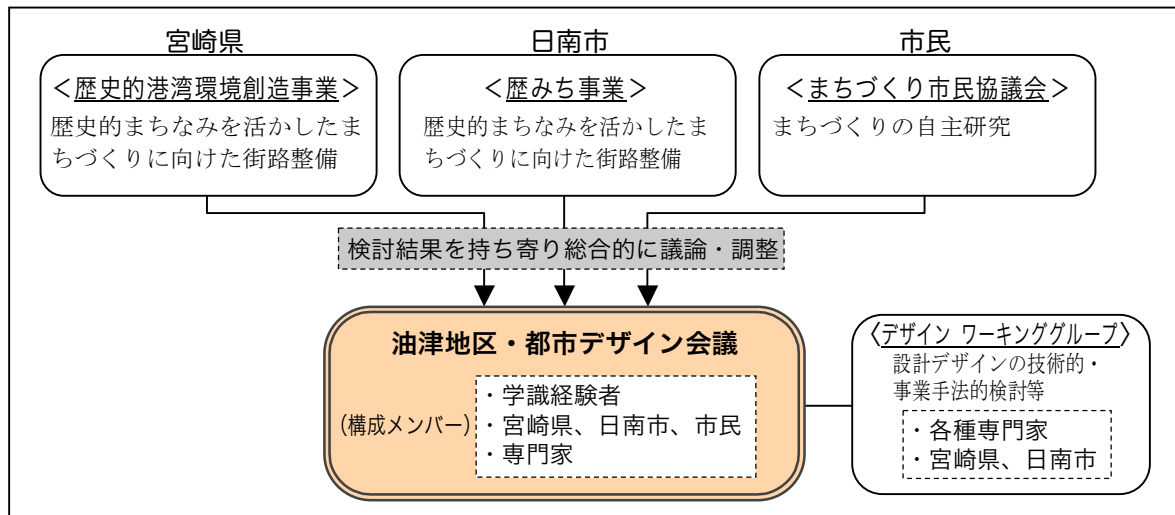
>>貴重な歴史資源は、一度壊してしまったら、二度と取り戻せません。事業の決定に際しては慎重を期することが大切ですし、必要に応じて計画の見直しや事業の中止を行う勇気と決断が求められることもあります。

### ●事業主体にとられない一体的な検討体制の確立

- ・宮崎県により堀川運河の整備が進められていたのと同時期に、日南市では、歴史的まちなみを活かしたまちづくりに向けた街路の整備を進めていました。この2つの事業は、共に、篠原修東京大学教授 (当時) が検討委員会の委員長を務めていたことから、両者を統合した合同会議として、県と市の共催により、「油津地区・都市デザイン会議」が設立 [平成15年 (2003)] されました。
- ・また、日南市の公募で集まった市民により設立された「まちづくり市民協議会」 [平成14年 (2002) から] は、まちづくりに関する自主研究会を行い、活動成果を都市デザイン会議で報告しました。
- ・これにより、県・市・市民・専門家による検討が行われるようになり、模型等を使いながら、計画や設計の検討が行われました。

>>関連する事業を一体的・総合的に検討できる体制を作り、整備に取り組むことが、質の高い景観を生み出します。

>>景観まちづくりにおいては、様々な立場の人々の意見を反映させることで、新たなアイデアや有効な解決策が生まれてきます。模型を使用するなど、みんなが分かりやすく議論できるように工夫することが大切です。



「油津地区・都市デザイン会議」の検討体制

### ●地元大工による、自主的な模型製作を通じた橋の工法の提案

- ・ 周辺整備の一環として行われた、「シンボル緑地」と呼ばれる緑地の整備では、木橋が新設されました。この設計段階において活躍したのが、「まちづくり市民協議会」のメンバーである、地元の大工さんでした。検討の過程で、木橋の模型を製作することを聞きつけたこの大工さんは、自ら模型製作を申し出て、全長約4mの5分の1スケールの木製の模型を製作しました。
- ・ これにより、工法や強度の確認が可能となりました。また、橋の屋根には、日南の伝統的な造船技術である「曲木」（材木を曲げて作った部材）の使用が検討されていましたが、当時は、橋に使うような大きなサイズの材木を曲げるための技術がありませんでした。そこで、この大工さんが自ら、木を曲げるための道具を制作しました。さらに、木橋の床板の固定方法についても、防水性に優れ、見た目にも優れた固定方法を提案しました。

>>住民は、職業や趣味に応じて、様々な知識や技能を持っています。中でも、大工などの、景観まちづくりに直接関係する職業の人々が、知識や経験を元に積極的な役割を果たすことが、地域に根ざした景観まちづくりの実現に繋がります。

>>市民の積極的な参加を得るためには、景観まちづくりに関する情報を公開することが大切です。

### 原則3 《実現性》 計画の実現のための資金や手法、運営等に対する細やかな配慮

### ●イベント開催等を通じた堀川運河の埋め立て反対運動

- ・ 堀川運河の保存と再生を望む市民によって設立された「堀川運河を考える会」では、運河のPRを目的に、昭和63年（1988）に「堀川運河まつり」を開催しました。音楽の愛好家によるグループと連携し、レンガ倉庫や空き地を利用して、ジャズライブやバザーなど、市民誰もが気軽に参加できるイベントを開催することで、市民が運河に関心を持つきっかけの一つになりました。

>>地域の人々が楽しんで参加できるイベントを開催することで、身近な景観資源への関心を高めることが出来ます。

**●市民による、会社設立を通じた歴史的建造物保存**

- ・平成8年に、日本ナショナルトラストによるまちなみ調査が行われ、堀川橋や河野家主屋など、5件の建造物が、国の登録文化財に登録されました。これによって、まちなみや、歴史的建造物に対する市民の関心が高まることとなりました。(平成19年度まで21件の登録文化財)
- ・その翌年に、大正時代に建造された赤レンガ倉庫の売却計画が起こると、「日南市産業活性化協議会」や「油津みなと街づくり委員会」のメンバーが中心となって、市民有志31人が会社を設立し、銀行からの融資を受けながら赤レンガ倉庫を購入し、「油津赤レンガ館」として保存を行いました。この建物は、翌年、文化庁の登録文化財に登録されました。
- ・銀行から借りた買収資金の完済を機に、「油津赤レンガ館」は市に寄贈され、市は、改修と活用に取り組んでいます。

>>歴史的建造物の保存においては、資金確保が課題となることもあります。適切な組織形態をとることで、融資や補助を受けることが出来るようになります。

**●工事の完成式典による市民の啓発**

- ・堀川運河の一部工事が竣工すると、宮崎県と日南市では、竣工式を開催しました。式典には多数の市民が参加し、子どもたちによる護岸の石積み体験や、照明の点灯式、和太鼓の披露などが行われました。この様子は、地元の新聞やテレビでも紹介され、堀川運河に対する市民の関心を集めることに繋がりました。
- ・屋根付き木橋孝治では、市民が「堀川運河に屋根付き橋をかくっかい実行委員会」を結成し〔平成19年(2007)〕、橋の名前募集や市内小中学生による部材へのメッセージ記入、上棟式や竣工式の開催などを行いました。

>>良好な景観を目にすることで、住民の関心は飛躍的に高まります。事業の途中段階や、完成時に、住民が参加できるイベントを開催することも、有効な方法の一つです。